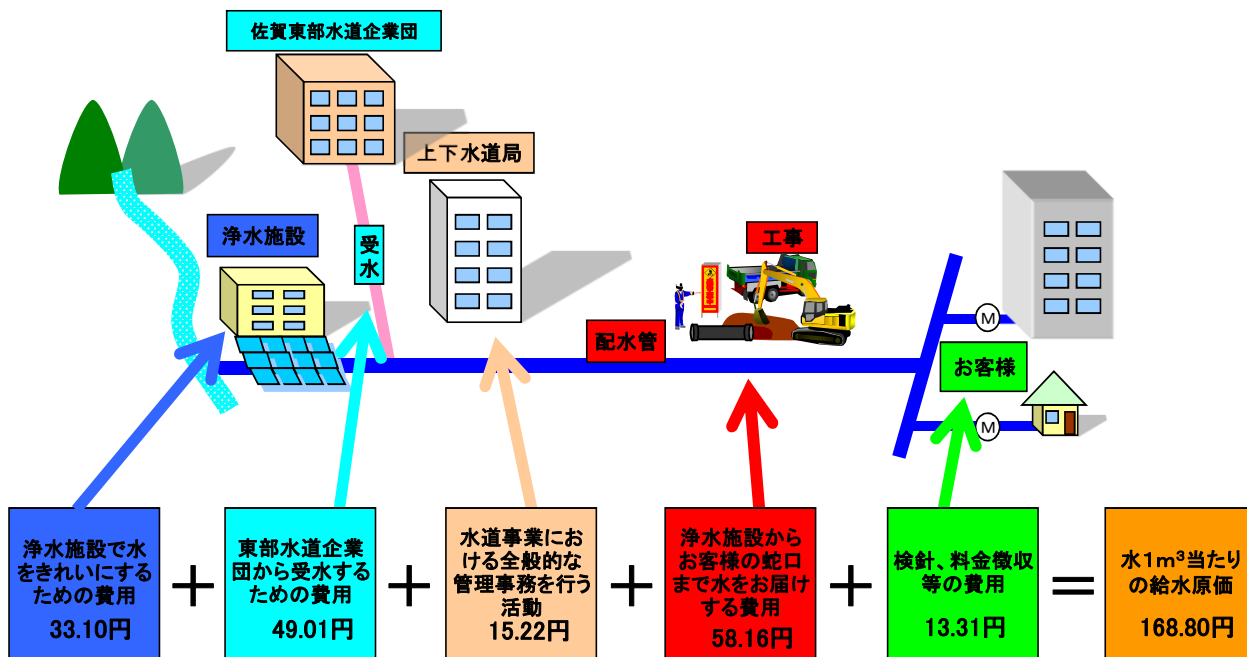


# ABC分析結果（水道事業） （平成30年度現在）

※30年度決算（30年4月1日～31年3月31日）数値より

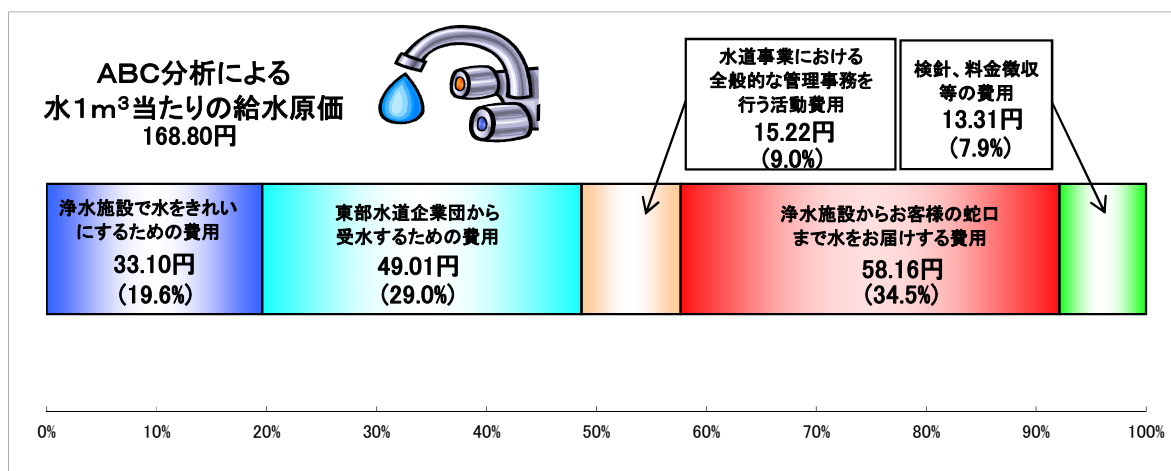
## 1. ABC分析のイメージによる結果



ABC分析給水原価(単位:円)

年間有収水量 19,690,475m<sup>3</sup>

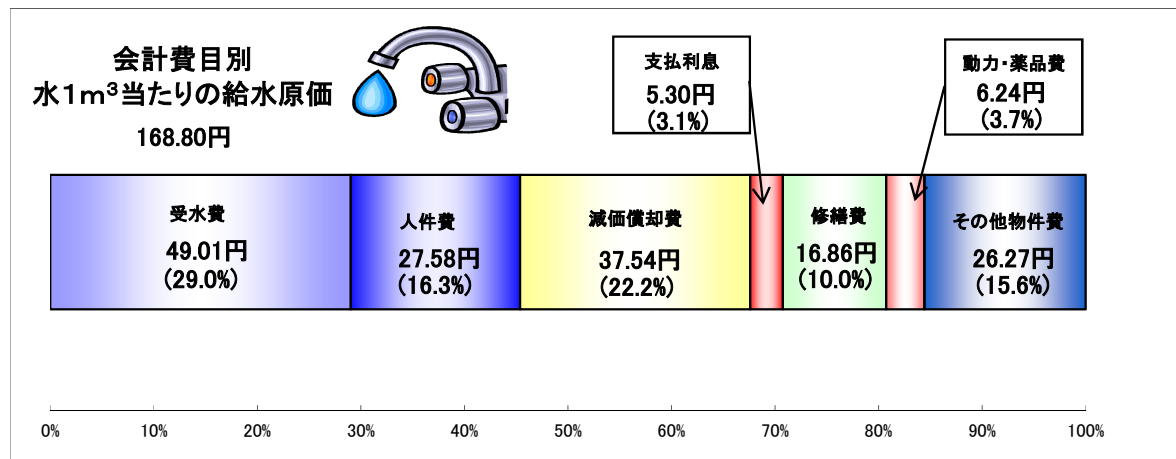
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
浄水施設で水をきれいにするための費用	33.10	651,718,959	19.6%
東部水道企業団から受水するための費用	49.01	965,157,569	29.0%
水道事業における全般的な管理事務を行う活動	15.22	299,728,653	9.0%
浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用	58.16	1,145,162,940	34.5%
検針、料金徴収等の費用	13.31	262,060,582	7.9%
計	168.80	3,323,828,703	100.0%



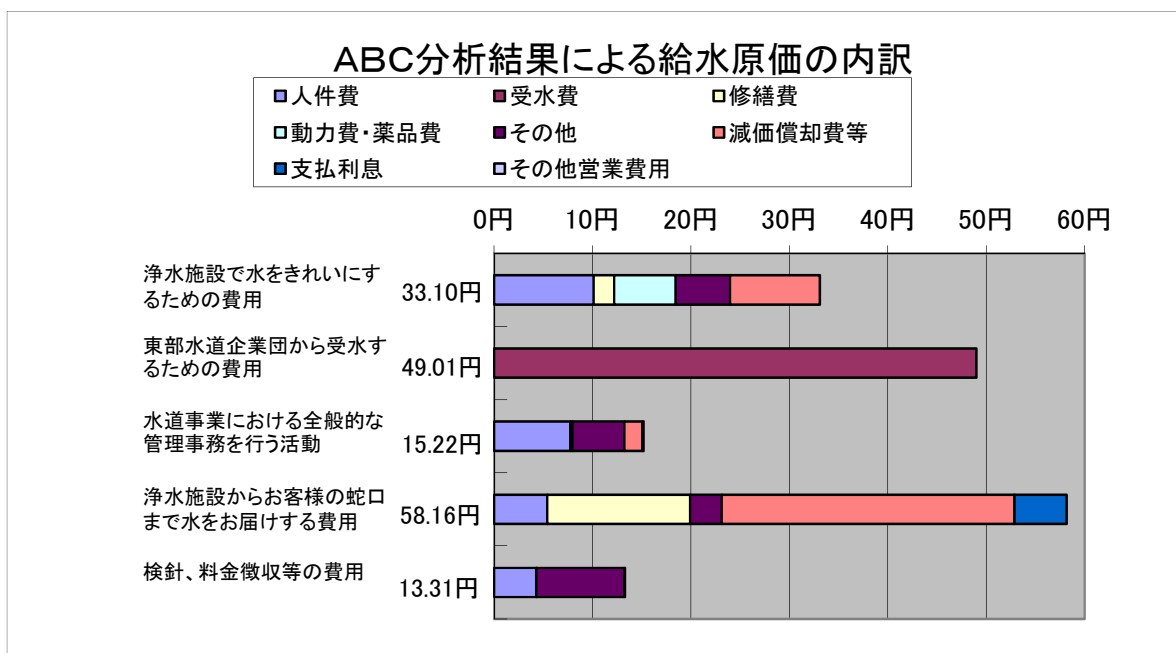
## 2. 参考

会計費目別給水原価(単位:円)

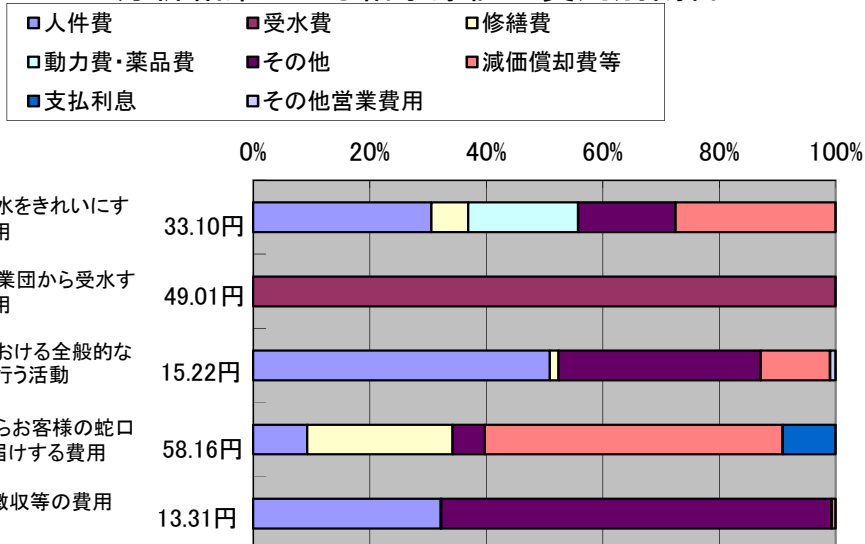
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
受水費	49.01	965,157,569	29.0%
人件費	27.58	543,059,726	16.3%
減価償却費	37.54	739,244,388	22.2%
支払利息	5.30	104,297,342	3.1%
修繕費	16.86	332,005,043	10.0%
動力・薬品費	6.24	122,834,292	3.7%
その他物件費	26.27	517,230,343	15.6%
計	168.80	3,323,828,703	100.0%



## 3. ABC分析グラフ



## ABC分析結果による給水原価の費用別割合



### 【分析結果】

給水原価は本年度168.80円で、「浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用」が給水原価の34.5%、「浄水施設で水をきれいにするための費用」が19.6%と、これらの費用で全体の約半分(54.1%)を占めています。また、「東部水道企業団から受水するための費用」が29.0%となっています。

給水原価を構成する会計費目では、受水費(29.0%)や減価償却費(22.2%)、人件費(16.3%)の順で割合が高くなっています。

水道事業は「装置産業」と言われ、資産のほとんどが配水・給水施設(お客様の蛇口まで水を届けるための施設)や浄水施設(水をきれいにするための施設)で占められています。そのため、これらの施設に係る減価償却費や施設の維持管理のための人件費、修繕費などの割合が高くなります。

今後も、施設の老朽化に伴う改築・修繕経費や、耐震化などの災害対策経費の増加が見込まれますが、安全で安心な水道水の供給を途切れることなく続けていくため、「上下水道ビジョン」及び「水道事業経営戦略」に基づいた効率的な事業経営を進めていきます。